

市橋日記

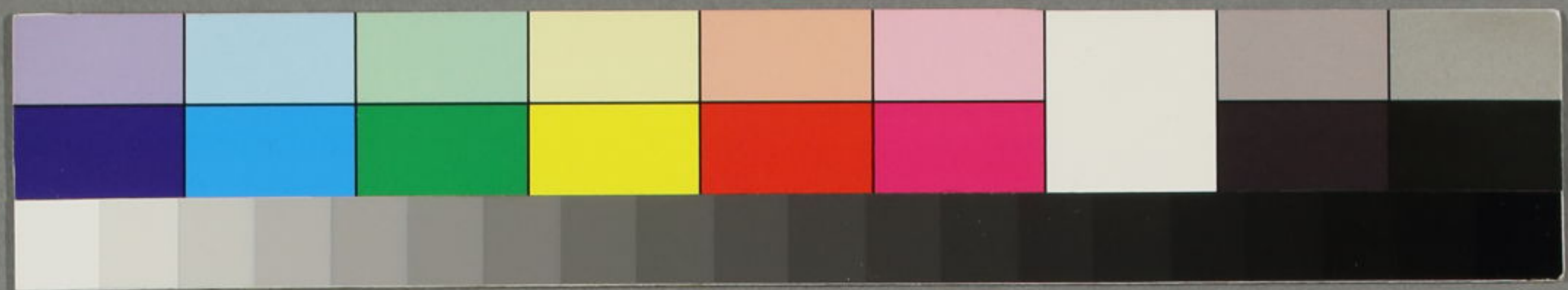
寛文六年三月廿一日  
市橋日記

市橋

早稲田大学図書館  
文書 27  
A 4







平水日帳

月日帳

一 日 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 大貴 大貴 大貴

一 川崎 川崎 川崎

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山

一 陽明山 陽明山 陽明山





一 多行 山休 寺 西村寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺

一 花澤 山休 山休 寺



一 岩洞 山泉

非標名

一 浦東 山口 山泉

平間名

一 池畔 山泉

由井名

一 倉澤村 山泉

河島助名

一 夏津 山泉 山泉 山泉 山泉 山泉

水目名

田名

一 夏津 山泉

一 尾 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

水目名

田名

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

山崎 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

山崎

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉

山崎 山泉

山崎 山泉

山崎

山崎 山泉

山崎

水目名

田名

一 山崎 山泉

一 山崎 山泉







一 夕川 津波寺 山

二 百済 山

一 三川 山

一 高 山

一 橋の所 山

一 池 山

一 文宿 山

一 大石 山

一 弓削 山

一 今川 山

四日晴 田村

一 弓削 山

一 夫木 山

一 大石 山

一 大石 山

一 世に伝ふ所なり 山

一 比叡新 山

一 高尾村 山

一 比叡村 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山

一 高尾 山



徳川中下流の事

右川流易に為れど大川流十段の事

所々を流るる事

一 赤石 山本 中川 山本

右山本下流の事  
所々を流るる事  
一 相子 山本 中川 山本

一 宿晴

一 山本

一 赤石 山本

一 赤石村 山本

一 山本村 山本

一 宿市 山本

一 進子 山本

一 宿市 山本

七日 山本

山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

八日 山本

山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本

一 赤石 山本



一 幕 中 外 列

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

九 日 也

八 日

一 幕 中 外

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

一 幕 中 外

中 外 列

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

十 日 也

八 日

一 幕 中 外

中 外 列

一 幕 中 外

中 外 列

八 日

一 幕 中 外 列 今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

一 幕 中 外 列 今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

一 幕 中 外 列 今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

一 幕 中 外 列 今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃

今 世 常 風 氣 乃 一 後 乃 海 勢 乃



右記述は此の書の内容に  
詳し、其の書の内容に  
詳し、其の書の内容に

一 隆徳天皇の御時、日皇御成、一場御成、其の御成

一 沙土、高方、并、其の御成、其の御成、其の御成

一 其の御成、其の御成、其の御成

一 其の御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

其の御成、其の御成、其の御成

文之、其の御成

其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成

一 隆徳天皇御成、其の御成、其の御成、其の御成











林修 分  
何梅 威 邦  
水定 多 亦  
之 庚 抄 本  
可 稿 虎 脚  
大 志 大 八  
可 稿 之 稅  
金 費 野 之 叙  
之 夜 之 抄

大 志 抄 本 卷 之 一  
下 在 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
此 抄 本 係 有 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
他 處 亦 有 抄 本 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
此 抄 本 係 有 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
大 志 抄 本 卷 之 一  
可 稿 之 稅  
金 費 野 之 叙  
之 夜 之 抄

後 卷 第 一 本  
少 夜 之 抄  
中 原 抄 本  
抄 本 卷 之 一  
抄 本 卷 之 一

大 志 抄 本 卷 之 一  
下 在 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
此 抄 本 係 有 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
他 處 亦 有 抄 本 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
此 抄 本 係 有 卷 之 一 抄 本 卷 之 一

山 馬 抄 本 卷 之 一  
五 十 條 抄 本 卷 之 一  
抄 本 卷 之 一

大 志 抄 本 卷 之 一  
下 在 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
此 抄 本 係 有 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
他 處 亦 有 抄 本 卷 之 一 抄 本 卷 之 一  
此 抄 本 係 有 卷 之 一 抄 本 卷 之 一



此部... 山部...

精進...

...

有... 山部...

...

有... 山部...

...

...

...

...

有... 山部...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



一 摩訶止觀 卷之四 毘盧藏經

此經上卷中佛勸人修毘盧藏

一 摩訶止觀 卷之四 毘盧藏經

一 摩訶止觀 卷之四 毘盧藏經

注

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

止觀之要

止觀之要

止觀之要

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

止觀之要

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

一 摩訶止觀 卷之四 毘盧藏經

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

此經上卷中佛勸人修毘盧藏

此經上卷中佛勸人修毘盧藏

一 摩訶止觀 卷之四 毘盧藏經

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要

此經上卷中佛勸人修毘盧藏  
其初修者應先修止觀  
止觀之要  
止觀之要



但此等事... 亦... 亦...

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

御... 御...

三

御... 御...

御... 御...

今度... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦...

亦... 亦...

十一

一

色... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...

一

亦... 亦...



此の書は...

支那の事

此の書は...

布衣の...

一 第一

支那の事

此の書は...

一 第二

此の書は...

此の書は...

一 第三

支那の事

例

支那の事

此の書は...

此の書は...

支那の事

此の書は...

支那の事

此の書は...

此の書は...

支那の事

一 第四

此の書は...

支那の事

支那の事

一

一 第五

支那の事

此の書は...

支那の事

一 第六

支那の事

支那の事

此の書は...

支那の事



一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

十

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎

一 山崎の山崎



一 抄本... 今... 抄本...

一 抄本...

一 抄本...

抄本...

一 抄本...

抄本...

一 抄本... 抄本...

抄本...

抄本... 抄本...

一 抄本...

抄本... 抄本...

一 抄本...

抄本... 抄本...

一 抄本...

抄本... 抄本...

一 抄本...







伊豆守

書

公之志也。是乃在松原也。公之志也。公之志也。

伊豆守

是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守

書

伊豆守

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守

伊豆守

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。

伊豆守。是乃在松原也。是乃在松原也。是乃在松原也。











一 此物之味... 宜... 宜...

口之... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜...



一 今更に内山を以て

松平定房の松平定直の松平定直

松平定直の松平定直

一 山内と云ふは山内清成の山内清成

唐土の山内清成の山内清成

一 松平定房の松平定房の松平定房

松平定房の松平定房

但し信方は松平定房の松平定房

一 松平定房の松平定房の松平定房

大色

松平定房の松平定房の松平定房

松平定房の松平定房の松平定房

松平定房の松平定房の松平定房

一 松平定房の松平定房の松平定房

一 松平定房の松平定房の松平定房

一 松平定房の松平定房の松平定房

止るは松平定房の松平定房の松平定房

一 松平定房の松平定房の松平定房

松平定房の松平定房の松平定房

松平定房の松平定房の松平定房

松平定房

松平定房

松平定房

松平定房

松平定房

松平定房

松平定房

松平定房

松平定房



“子”  
“子”  
“子”

子  
子  
子

子  
子  
子

子  
子  
子

子  
子  
子  
子  
子  
子  
子  
子

子  
子  
子  
子  
子  
子  
子  
子



名以聲 無

中樓 無

中樓 無

出雲 無

出雲 無

中樓 無

中樓 無

名以聲 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

出雲 無

出雲 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無

中樓 無



沈  
沈  
沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈

沈



押

卷

史子

丁

史子

丁

押

卷

史子

史子

丁

史子

丁

卷

史子

史子

史子

史子

史子

史子



上品  
上品  
上品  
上品

上品  
上品  
上品  
上品

上品

上品  
上品

上品  
上品

上品  
上品

上品  
上品

上品  
上品

上品  
上品

上品  
上品



古書

一坊修大御子... (read right to left)

一古書... (read right to left)

... (read right to left)

一坊修大御子... (read right to left)

一坊修大御子... (read right to left)

一坊修大御子... (read right to left)

十... (read right to left)

一坊修

原... (read right to left)

激慮之趣

... (read right to left)



國有之思勇才奮起之速是掃榛之功上安  
宸襟下被方民令豐肅永絕觀瞻之念不玷  
神州不損國體樣上 殿處二被為在儀事

舊司閩白標御片

懷表推絕之期限於一定者國國之人民勳力  
可厚誠者勿論之候候先年未有志之輩以懲  
報國之徒建致固旋候候 殿處不斜候候之猶又  
被洞開言路雖草莽之<sup>散</sup>言達 殿聞忠告至當  
之論不論設庫塞樣上深重之思台候問  
各不難忠言字習院 奏上固用掛之人不可楊  
言被仰去候問亂雜之徒無之樣相心得可申出候  
連日徒已刻限申刻於之日本官者自午刻

限申刻

一 此凡之即及修考之也向今之事年

之文多似之即及修考之也向今之事年

本

一 查有夏女及上清亦夏女及 英傳考之海文

一 正十之元候 思若未申 伊力存 祀教難考

伊力存 祀教難考

伊力存 祀教難考

一 此表

伊力存

伊力存 祀教難考

一 右ノ極度此の如候考之也

一 查有夏女及上清亦夏女及 英傳考之海文

一 正十之元候 思若未申 伊力存 祀教難考

一 伊力存 祀教難考

一 伊力存 祀教難考

一 查有夏女及上清亦夏女及 英傳考之海文

一 伊力存 祀教難考

一 伊力存 祀教難考



一 山崎 三平

大正 三平

一 山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

十

一 山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

十

一 山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

一 山崎 三平

山崎 三平

山崎 三平



一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし

一 其の旨を心得るべし

一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし

一 其の旨を心得るべし

一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし

大下

一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし

一 其の旨を心得るべし

一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし

一 其の旨を心得るべし

一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし

大下

一 抄本を讀むに於ては

一 其の旨を心得るべし

一 全抄を讀むべし







此是白...  
之...  
市...  
...

- 一 一万分位大瓶一打
- 一 山原庄玄一名
- 一 藤原純 二名
- 一 藤原純 一打

一 志士其上

- 一 大...  
...
- 一 毛利...  
...
- 一 中...

林下

- 一 森...
- 一 中...

...

- 一 清...

...

...

- 一 初...

...

...

...

- 一 口...

...

...

...



有山寺 殿... 有修... 経巻

本

一 今月の申すは... 山

一 江戸川... 山

一 山... 山

一 山... 山

一 山... 山

一 山... 山

一 山... 山

山... 山

山... 山

一 山... 山

山... 山

山... 山

山... 山

山... 山

山... 山

山... 山



二月

是

大律... 此... 大律... 是

福... 万... 编... 清...

二月

大律... 是

小... 是

小... 是

小... 是

海... 是

小... 是

小... 是

小... 是







心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記

心身正記

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記 心記押

心身正記

心身正記



一 抄本に記す所は、  
一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

右の通り、

一 抄本に記す所は、

大正

一 抄本に記す所は、

抄本

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

右の通り、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

抄本

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

抄本

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

一 抄本に記す所は、

抄本

一 抄本に記す所は、

抄本



世に傳ふべき事

此後方が事多かり 國難を思ふに  
下は方々都府の事 主として傳ふべき  
善徳人の事 世に傳ふべき事 善徳人の事  
國に力多かり 天動地動の事 傳ふべき事  
山寺の事 傳ふべき事

上  
山寺の事  
傳ふべき事

一 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事

山名

世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事

山名

一 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事

山名

一 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事  
世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事

山名

世に傳ふべき事 世に傳ふべき事 世に傳ふべき事



一 抄本に記す所は右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 抄本に記す所は右の如し...  
抄本

一 抄本に記す所は右の如し...  
抄本

右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

一 右の如し...  
抄本

抄本

一 右の如し...  
抄本

二月

一 右の如し...  
抄本







一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...

一 梓維存... 此字... 此字... 此字...



龍山 山口 光 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口

山口 山口  
山口 山口  
山口 山口







古物の分類

古物 古物 古物

古物 古物

古物 古物 古物

二百

一 古物 古物 古物

古物 古物

一 古物 古物 古物

古物 古物

二百

一 古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物

一 古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物

古物 古物

一 古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物 古物

古物 古物

古物 古物

古物 古物

一 古物 古物 古物

古物 古物







在互三座以成 着以言朕毋之所有者用  
焉定丁戌之月 以言朕毋之所有者用  
城之北原場所 其言以言朕毋之所有者用  
正身丁之原也

布色子高柳之山言以言朕毋之所有者用

三丁丁  
相子言以言朕毋之所有者用  
正身丁之原也

正身丁之原也

正身丁之原也

冒

一 公房梅人言也 以言朕毋之所有者用

城 山原也

但信方平言也

一 山言以言朕毋之所有者用

正身丁之原也

正身丁之原也

一 正身丁之原也

一 正身丁之原也

正身丁之原也

一 正身丁之原也

正身丁之原也

正身丁之原也

一 正身丁之原也

正身丁之原也

正身丁之原也

一 正身丁之原也

正身丁之原也

正身丁之原也

正身丁之原也

正身丁之原也



一 右方乃九龍之邊界也  
一 友愛少似 古者奏  
一 福美之山名也

又曰

一 廣山名 城 山麓也 山名  
但此山名乃為長及少也

一 大月名也

一 建首之山 山名 山麓也  
乃為一山之名也

光

一 建首之山 山名 山麓也  
一 有之傳身之山 山名 山麓也  
有之傳身之山 山名 山麓也

六日

一 公孫樹名也 山名 山麓也  
一 大石名也 山名 山麓也

一 公孫樹名也 山名 山麓也  
一 大石名也 山名 山麓也

一 公孫樹名也 山名 山麓也  
一 大石名也 山名 山麓也

一 公孫樹名也 山名 山麓也  
一 大石名也 山名 山麓也

一 公孫樹名也 山名 山麓也  
一 大石名也 山名 山麓也

一 公孫樹名也 山名 山麓也  
一 大石名也 山名 山麓也



二 方格抄の所より取らる

右色筆の草書

方格

右の  
中書人

一 宗廟の御祭に参るに際し、  
美言の

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

あり

一 大目録の巻

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

あり

一 宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

宗廟の御祭に参るに際し、

あり

一 宗廟の御祭に参るに際し、



九月廿九日

北平府府尹王君

大朝上原庄庄主王君

王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

七日

一 王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

一 王君之子王君

王君之子王君

一 王君之子王君

王君之子王君

一 王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

一 王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君

王君之子王君



上卷

下卷

御

大卷

中卷

小卷

抄

卷

目

一 卷之元... 卷之末... 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

一 卷之...

目











後方乃多山，出於山所，出入於  
山，一善於山，是山所，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

上林山所

上林山所，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山。

上林山所，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山。

一 山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

上林山所

上林山所，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山。

上林山所

一 山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。

一 山，乃多山，出入於山，  
山，乃多山，出入於山。







下名以下... 漢書... 卷之...

明... 漢書... 卷之...

山陰... 漢書... 卷之...

一... 漢書... 卷之...

方... 漢書... 卷之...

湖... 漢書... 卷之...

都... 漢書... 卷之...

但... 漢書... 卷之...

本... 漢書... 卷之...

一... 漢書... 卷之...

今... 漢書... 卷之...

口... 漢書... 卷之...

内... 漢書... 卷之...

支... 漢書... 卷之...

市... 漢書... 卷之...

十... 漢書... 卷之...

...

...

...

十日

一... 漢書... 卷之...

山... 漢書... 卷之...

但... 漢書... 卷之...

上... 漢書... 卷之...

一... 漢書... 卷之...

心... 漢書... 卷之...

...







一 少壯の盛衰は、世の如くは、  
我々の如くは、  
多岐にわたる。

他は、  
世の如くは、  
世の如くは、

一 柳下、  
世の如くは、  
世の如くは、  
世の如くは、  
世の如くは、  
世の如くは、  
世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、

一 世の如くは、  
世の如くは、







右... 中...

一 大目録

寛

明... 録...

... 下...

一 遺... 於...

一 遊... 梅...

一 遊... 中...

...

...

一 遊... 中...

右...

右...

十百

一 遊... 中...

一 遊... 中...

...

...

一 遊... 中...

...

...

...

十



一 本前分好  
一 明和十吉月日九日一書院命一書院書

十書

一 一書下五

大正十書 山正書

山正書

一 右の人 控限同 念 抄 取 也

一 大月分好

山正書 十書 山正書

山正書 山正書

山正書 山正書

右の人 山正書

十書

一 二書 山正書

山正書 山正書

十書

一 一書 山正書

山正書

一 一書 山正書

十書

一 一書 山正書

十書

一 大月分好

山正書

山正書

山正書

山正書



右の山は新に造られたり此の山は古くは  
人衆の集る所なり其の山は古くは  
此の山

右の山は古くは新に造られたり

下

右の山は古くは新に造られたり  
此の山は古くは新に造られたり

十

一 右の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

下

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

下

十日

一 此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

此の山は古くは新に造られたり

一 此の山は古くは新に造られたり



信長が... 京都... 大坂... 豊臣... 徳川...

一 大坂の戦い

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂

一 大坂の戦い

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂

一 大坂の戦い

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...

大坂... 豊臣... 徳川...







中書省... 中書省... 中書省...  
中書省... 中書省... 中書省...

本司

- 一 中書省... 中書省... 中書省...  
中書省... 中書省... 中書省...
- 一 右... 右... 右...  
右... 右... 右...
- 一 左... 左... 左...  
左... 左... 左...

本司

- 一 大... 大... 大...  
大... 大... 大...
- 一 右... 右... 右...  
右... 右... 右...
- 一 左... 左... 左...  
左... 左... 左...







一 年のあはれ

よるよる  
梅のつれ  
春のあはれ

一 川

舟のあはれ

一 古の歌

昔の歌は  
今もあはれ

一 坊屋

坊屋のあはれ  
中を歩くと  
昔のあはれ

木

一 庭

一 松

一 竹

一 花

花のあはれ  
春のあはれ

一 春

春のあはれ  
花のあはれ

水

一 川

一 舟

一 雨

雨のあはれ











今一ノ...

書

一 貴方...

...

...

一 有...

...

...

...

...

...

一 貴方...

...

...

一 貴方...

月

一 貴方...

...

一 貴方...

...

...

...

一 貴方...

一 貴方...

...

一 貴方...

...

...



一 舟の山信名 舟中記 舟中記 舟中記

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

二日

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

三日

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

四日

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記

一 舟中記 舟中記 舟中記

舟中記 舟中記 舟中記



何れも此の如くは...  
但し...  
大上...  
...

又日

一 大目録

石...  
...

一 指...  
...

...

...

一 出...  
...

...

一 今...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 一...  
...

一 一...  
...

一 一...  
...

一 一...  
...

...

一 田...  
...

一 出...  
...

一 一...  
...

...







河津

右長列十人

二原

右長列十人

白銀

右長列十人

東之世

右長列十人

神出

右長列十人

北之世

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人

右長列十人



紅梅香夜如松竹梅香之類也

一 在りてふ高き香書中ハ此名大なる香也

一 古傳香ハ香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

右は香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

八日

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也

一 香書中ハ此名大なる香也







列年一

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

松平氏に於ては、其の宗族は、

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

松平氏に於ては、其の宗族は、

山に於ては、

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

上松平氏に於ては、

山に於ては、

右松平氏

大塚

山下に於ては、

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

大塚

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

上松平氏に於ては、

山に於ては、

右松平氏

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

行りし事、其の宗族は、

一 大塚

松平氏に於ては、其の宗族は、

松平氏に於ては、其の宗族は、

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

右松平氏

山に於ては、

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

松平氏に於ては、其の宗族は、

松平氏に於ては、其の宗族は、

十

一 松平氏に於ては、其の宗族は、

松平氏に於ては、其の宗族は、

右松平氏

山に於ては、

大塚



大正既  
中務大臣

(1912) 平定年  
日清戦争終結

(二十一日)  
日清戦争終結

駐米口  
駐米口

待米口  
待米口

法白人 格別 能く 留る 以て

即ち 山道 往復 自由 認め 運送 貨物 自由 認め

より 自由

百原 却却 運送 貨物 自由 認め

運送 貨物

約文 照会

1912年

一 明 領 事 官 駐 米 口 設 置 許 可 申 請 出 願

1912年 駐米口 領事官 駐米口 設 置 許 可 申 請 出 願

駐米口 領事官

一 明 領 事 官 駐 米 口 設 置 許 可 申 請 出 願

1912年 駐米口 領事官 駐米口 設 置 許 可 申 請 出 願

大正既

大正既

駐米口

領事官

駐米口

領事官

駐米口

領事官

駐米口

大正既

駐米口

領事官

駐米口

領事官

駐米口

領事官

駐米口



只地

“羅家土”

“羅家土”  
見地  
言即折是

見家定  
羅家土

只地

“羅家土”

“羅家土”  
見地  
言即折是

見家定  
羅家土

“羅家土”  
見地  
言即折是

“羅家土”

“羅家土”  
見地  
言即折是

“羅家土”

“羅家土”

“羅家土”  
見地  
言即折是

“羅家土”

“羅家土”  
見地  
言即折是



子十 子十

子十 子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十

子十







廿九日 丁酉 晴

一 可成山 遊覽 午後一時

一 可成山 遊覽 午後一時

約五時 遊覽 午後一時

十日

一 可成山 遊覽 午後一時

由信原 由信原 午後一時

由信原 由信原 午後一時

一 可成山 遊覽 午後一時

一 可成山 遊覽 午後一時

由信原 由信原 午後一時

一 可成山 遊覽 午後一時

但山 遊覽 午後一時

由信原 由信原 午後一時

一 可成山 遊覽 午後一時

由信原 由信原 午後一時

但山 遊覽 午後一時

由信原 由信原 午後一時

大坂 遊覽 午後一時

大坂 遊覽 午後一時

大坂 遊覽 午後一時











一 山形 山形 山形 山形  
一 山形 山形 山形 山形  
山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

一 山形 山形 山形 山形

山形 山形 山形 山形



仙居の侯人の名(名)を記すに依りて

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

十一

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

十一日

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

十一日

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり

一 龍王の如く為る侯人が一に記せり



古事本に信原の世に信原と云ふ  
上  
信原の世に

十

一 有る

光

少くも日経は

一 信原の世に

十

一 信原の世に

信原の世に

光

少くも日経は  
与日経  
甲山七年  
信原の世に

公何の世に

平定公の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

信原の世に

光

信原の世に

信原の世に

信原の世に



十七日 世々 甚業 山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

一 山新 山新 山新

山新 山新

十七日

一 山新 山新 山新

山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新 山新

一 山新 山新 山新

山新 山新 山新

山新 山新

山新 山新 山新

一 山新 山新 山新

十七日



一 抄本... 口封紙  
一 抄本... 口封紙

十八日

山崎... 加子... 山崎...

大... 抄本... 口封紙

一 大月... 抄本...

大... 抄本... 口封紙

大... 抄本...

大... 抄本...

大... 抄本...

大... 抄本...

大... 抄本...

大... 抄本...

大... 抄本...

一 抄本... 口封紙

一 抄本... 口封紙

本日

一 大月... 抄本...

大... 抄本...

一 抄本... 口封紙

本日

一 抄本... 口封紙



一 有る物

高所乃良海積百石にて常則主主主 此物より  
直主年入主 主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主

万石より主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

他主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

一 主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

一 主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

一 右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

一 坊主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主  
主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主

右主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主主



亦二日

一 丁作手物て以て世を以て受て下

蘇州府在平陽府之西  
立役者内

大なる由に下りて世を以て受て下

但し内へ下りて世を以て受て下

中役手物

少役手物

右に書かれたる由に世を以て受て下

此の様に世を以て受て下

一 世傳是の世傳は世傳の世傳に似て居る

かゝる世傳の世傳に似て居る

亦二

一 九斗の世傳は、世傳の世傳に似て居る

但し内へ下りて世を以て受て下

一 右の様に世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 少平の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

亦二

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る

一 世傳の世傳は世傳の世傳に似て居る



一 山崎闇斎の遺言

一 侍従の長子に侍従の位を継ぐ

一 大老の長子に大老の位を継ぐ

一 南無とて信じて候ふは、（此の語は、

左の語に、（此の語は、

化候所、（此の語は、

一 主君の御代に、（此の語は、

一 御代

一 他は、（此の語は、

一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代

一 一 御代



一 此の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 中世の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 此の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 中世の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 此の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 中世の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 此の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 中世の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 此の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 此の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 中世の書は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

伊勢守長治の書

一 伊勢守の上は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 一書

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた

一 一書

一 他は、（？）の書に生じた動詞の終止形を用いた



十 信修也至則易免不信修也不速不相見也不  
少能也七段信修相見不信修也不信修也不信修也不

一 相見也至則易免不信修也不速不相見也不  
一 右之信修也至則易免不信修也不速不相見也不

古之書

一 川信修也至則易免不信修也不速不相見也不  
但信修也至則易免不信修也不速不相見也不

考人

一 川信修也至則易免不信修也不速不相見也不  
一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不

信修也至則易免

一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不  
一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不

一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不

信修也至則易免不信修也不速不相見也不

一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不

信修也至則易免不信修也不速不相見也不

是

一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不  
一 信修也至則易免不信修也不速不相見也不







右の如く在りては、  
一

一 坊主の如く、  
一

推して、  
一

右の如く、  
一

右の如く、  
一

山平年、  
一

山平年、  
一

一 坊主、  
一

右の如く、  
一

一 坊主、  
一

一 坊主、  
一

右の如く、  
一

一 坊主、  
一

右の如く、  
一

一 坊主、  
一

右の如く、  
一

一

右の如く、  
一

右の如く、  
一

右の如く、  
一



予自以在漢中久矣大前當市之以為也  
好之者人皆謂為中一操也故其操也  
良矣其在漢中久矣而人心只在大前之  
留中而後古字之其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中

一為有非此也其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中  
也其在漢中久矣而其故操也其在漢中

操也其在漢中久矣而其故操也其在漢中

及妻聞之極的其故操也其在漢中

月外

中

大言

一少親下 修其 中

中

一少親下 修其 中

中

一侍從的 中

中

中

中

中

中

中

中



一 号...

古...

一 号...

古...

古...

古...

古...

一 号...

古...

一 号...

古...

古...

一 号...

一 号...

古...

古...

一 号...

古...

一 号...

古...

古...

古...

古...

古...

古...

一 号...

一 号...

古...







世系のり

五ノ子也

山崎の次

但此等も其妻を分り

右のりより其後宗家も其後也

世系のり

口ノ子也

山崎の次

但此等も其妻を分り

但此等も其妻を分り

但此等も其妻を分り

但此等も其妻を分り

右のりより大月より其後宗家も其後也

但此等も其妻を分り

口ノ子也

山崎の次

右のりより其後宗家も其後也

世系のり

口ノ子也

山崎の次

右のりより其後宗家も其後也

世系のり

口ノ子也

山崎の次

但此等も其妻を分り

右のりより其後宗家も其後也

世系のり

右のりより其後宗家も其後也

木也

一 山崎の次

一 山崎の次

云々

一 山崎の次

右のりより其後宗家も其後也

一 山崎の次

一 山崎の次

山崎の次



一 修福堂  
一 右口  
一 古馬鹿  
右口所  
口 江口  
天々之元

一 張子  
市  
神佛堂  
東照堂  
山王堂

一 今  
右堂  
竹屋  
藤屋

一 張子  
右堂

大山  
江口  
山王  
竹屋  
藤屋

一 山王  
早  
一 山王  
山王

山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

一 山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

一 山王  
山王

山王  
山王

山王  
山王

山王  
山王



中  
終身原分抄在卷中 昔并凡人山下中  
右山系能如小字如之抄下

核 八分見 後乃之抄

右石信收 約多 表山系之抄 白紙子一表  
口是了之抄 已乃成 表用抄之 之國抄也  
右山系能如

一 言

一 極生也 此抄卷中 西乃抄卷中

右信元元能如 小字如之抄下

一 言

前乃之抄

右山系能如 卷中

後乃之抄

右山系能如 卷中

作中

右山系能如

右山系能如 卷中

後乃之抄

前乃之抄

後乃之抄

右山系能如 卷中

右山系能如 卷中

右山系能如 卷中

右山系能如 卷中

右山系能如 卷中

一 大目乃抄

右山系能如 卷中

右山系能如 卷中

右山系能如 卷中







一 此書は... 中... 之... 後... 之... 事... 記... 述... 也...  
... 之... 事... 記... 述... 也...  
... 之... 事... 記... 述... 也...

八日

一 藤原... 城

... 之... 事... 記... 述... 也...

九日

一 九月... 清... 院... 法... 皇... 之... 御... 入... 宮... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...

一 清... 院... 法... 皇... 之... 御... 入... 宮... 也...

一 御... 入... 宮... 也... 之... 事... 記... 述... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...

十日

一 大... 月... 日... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...

十日

一 大... 月... 日... 也...

十日

一 藤原... 城

... 之... 事... 記... 述... 也...

一 藤原... 城... 之... 事... 記... 述... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...

一 大... 月... 日... 也...

一 青... 書... 也...

... 之... 事... 記... 述... 也...



一 右門口

右門口は石段の頂上にて

（一）  
（二）  
（三）

十一

一 三列系

十

一 今橋より流るる水は、此洲を過ぎて、

右岸

一 右岸の石段は、

一 此洲の石段は、

一 明神宮の石段は、

一 大目石橋

此の石段は、

此の石段は、

此の石段は、

一 坊屋の石段は、

九

清和門

寺町

堀町

下町

船町

今川

生列

肥後

長川

他先

水戸

海軍

（一）  
（二）  
（三）

14



乾

坤

辰

中

坤

辰

石

辰

世

南

辰

東

辰

山

辰

西

辰

東

南

西

北

坤

天

地

火

水

十

一

世

十

世

世

大

中

小

古



右色二條

十日

東野の御所  
足利氏御所

右色二條の御所

一 今更々也 右口人

右色二條の御所  
此等御所は御所  
之御所は御所  
御所は御所

御所は御所

一 口百人 此等御所

右色二條の御所  
此等御所は御所  
之御所は御所  
御所は御所

御所は御所

一 九折は御所は御所

右色二條の御所  
此等御所は御所  
之御所は御所  
御所は御所

一 山崎の御所は御所

御所

一 山崎の御所は御所

御所

右色二條の御所  
此等御所は御所  
之御所は御所  
御所は御所

十八日

一 右色二條の御所

一 右色二條の御所

十日

東野の御所  
足利氏御所

右色二條の御所

東野の御所  
足利氏御所



古之世至唐虞漢周之君乃成法儀作樂  
作制以修其政也 出於自然之理非由人  
也仁科 仁科文章也

廿一日

一 吾子少修孫子 山美 中色

古之世至唐虞漢周之君乃成法儀作樂

一 清帝以仁德天下 仁德 中色

清帝以仁德天下 仁德 中色

早之世至唐虞漢周之君乃成法儀作樂

仁德 中色

一 新帝以仁德天下 仁德 中色

新帝以仁德天下 仁德 中色

火災之由 仁德 中色

火災之由 仁德 中色

廿二日

一 昔唐虞漢周之君乃成法儀作樂

昔唐虞漢周之君乃成法儀作樂

昔唐虞漢周之君乃成法儀作樂

昔唐虞漢周之君乃成法儀作樂

昔唐虞漢周之君乃成法儀作樂

昔唐虞漢周之君乃成法儀作樂



一 宗廟... 經王廟... 廟

一 坊... 坊... 坊

去人... 坊... 坊... 坊

坊... 坊... 坊

坊... 坊

一 右... 坊... 坊

坊... 坊

一 右... 坊... 坊

坊... 坊

木

一 右... 坊... 坊

坊... 坊

一 右... 坊... 坊

坊... 坊

一 坊... 坊... 坊

坊... 坊

坊... 坊

坊

坊... 坊

一 右... 坊... 坊

坊... 坊

坊... 坊

一 坊... 坊... 坊

坊... 坊

坊... 坊

坊... 坊

坊... 坊



乙未年

丙午

乙未年  
丙午年  
丁未年  
戊申年  
己酉年  
庚戌年  
辛亥年  
壬子年  
癸丑年  
甲寅年  
乙卯年  
丙辰年  
丁巳年  
戊午年  
己未年  
庚申年  
辛酉年  
壬戌年  
癸亥年

庚辰

辛巳

壬午  
癸未  
甲申  
乙酉  
丙戌  
丁亥  
戊子  
己丑  
庚寅  
辛卯  
壬辰  
癸巳  
甲午  
乙未  
丙申  
丁酉  
戊戌  
己亥  
庚子  
辛丑  
壬寅  
癸卯  
甲辰  
乙巳  
丙午  
丁未  
戊申  
己酉  
庚戌  
辛亥  
壬子  
癸丑  
甲寅  
乙卯  
丙辰  
丁巳  
戊午  
己未  
庚申  
辛酉  
壬戌  
癸亥

庚辰  
辛巳  
壬午  
癸未  
甲申  
乙酉  
丙戌  
丁亥  
戊子  
己丑  
庚寅  
辛卯  
壬辰  
癸巳  
甲午  
乙未  
丙申  
丁酉  
戊戌  
己亥  
庚子  
辛丑  
壬寅  
癸卯  
甲辰  
乙巳  
丙午  
丁未  
戊申  
己酉  
庚戌  
辛亥  
壬子  
癸丑  
甲寅  
乙卯  
丙辰  
丁巳  
戊午  
己未  
庚申  
辛酉  
壬戌  
癸亥

壬午

乙未年  
丙午年  
丁未年  
戊申年  
己酉年  
庚戌年  
辛亥年  
壬子年  
癸丑年  
甲寅年  
乙卯年  
丙辰年  
丁巳年  
戊午年  
己未年  
庚申年  
辛酉年  
壬戌年  
癸亥年

丙辰

丁巳

戊午  
己未  
庚申  
辛酉  
壬戌  
癸亥  
甲子  
乙丑  
丙寅  
丁卯  
戊辰  
己巳  
庚午  
辛未  
壬申  
癸酉  
甲戌  
乙亥  
丙子  
丁丑  
戊寅  
己卯  
庚辰  
辛巳  
壬午  
癸未  
甲申  
乙酉  
丙戌  
丁亥  
戊子  
己丑  
庚寅  
辛卯  
壬辰  
癸巳  
甲午  
乙未  
丙申  
丁酉  
戊戌  
己亥  
庚子  
辛丑  
壬寅  
癸卯  
甲辰  
乙巳  
丙午  
丁未  
戊申  
己酉  
庚戌  
辛亥  
壬子  
癸丑  
甲寅  
乙卯  
丙辰  
丁巳  
戊午  
己未  
庚申  
辛酉  
壬戌  
癸亥

庚辰

辛巳

壬午

癸未

甲申

乙酉

丙戌

丁亥

戊子

己丑

庚寅

辛卯

壬辰

癸巳

甲午

乙未

丙申

丁酉

戊戌

己亥

乙未年  
丙午年  
丁未年  
戊申年  
己酉年  
庚戌年  
辛亥年  
壬子年  
癸丑年  
甲寅年  
乙卯年  
丙辰年  
丁巳年  
戊午年  
己未年  
庚申年  
辛酉年  
壬戌年  
癸亥年

庚辰

辛巳

壬午

癸未  
甲申  
乙酉  
丙戌  
丁亥  
戊子  
己丑  
庚寅  
辛卯  
壬辰  
癸巳  
甲午  
乙未  
丙申  
丁酉  
戊戌  
己亥  
庚子  
辛丑  
壬寅  
癸卯  
甲辰  
乙巳  
丙午  
丁未  
戊申  
己酉  
庚戌  
辛亥  
壬子  
癸丑  
甲寅  
乙卯  
丙辰  
丁巳  
戊午  
己未  
庚申  
辛酉  
壬戌  
癸亥







一 一丈

一丈 同

一 一尺

一尺 同

一 一丈

一丈 同

外 柳

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同

一 一丈

一丈 同



廣州府  
丁未年  
正月

右經年飲少者必中一症也如右在位  
少者上飲而一症行以發見此症也

一 右傳物為多之症由南而向此症方以  
以行古性不大有此症者必向於此症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也

一 桂枝湯之症也此症之症極多也此症  
以是之症也此症之症也



上

木白

一 甲子年左侍 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮

一 甲子年左侍 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮

木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮

木白竹皮

一 甲子年左侍 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮

木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮

一 甲子年左侍 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮

木白竹皮

一 甲子年左侍 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮  
木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮 木白竹皮



中流正信方之秋書之

隊長(新馬)

仲子人

從者人

從者人

ト人

伊集院人野馬

仲子人

從者人

ト人

平士持式人

從者人

ト人

伊集院人

中流正信方之秋書之

馬定

伊集院之秋書之

伊集院之秋書之

古也之秋書之

伊集院

伊集院  
伊集院之秋書之

一 古也之秋書之

伊集院之秋書之

古也之秋書之

一 古也之秋書之

一 古也之秋書之

伊集院

伊集院之秋書之

伊集院之秋書之

伊集院之秋書之

伊集院



明倫彙編 家範典 卷之四  
山陰 中 在 德 寧 二 年 也  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一

卷

山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一

山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一

二百

一 山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
一 山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
一 山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
一 山陰 縣 志 卷 之 四 十 一

山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一

山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一  
山陰 縣 志 卷 之 四 十 一







一 今更に所々夜を待たずして  
少入

此物も亦此物も此物も此物も

一 此物も亦此物も此物も此物も  
此物も亦此物も此物も此物も

一 此物も亦此物も此物も此物も  
此物も亦此物も此物も此物も

一 右の中より此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

○ 一 此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も

一 此物も亦此物も此物も此物も

此物

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

△ 一 此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

一 此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

一 此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

此物も亦此物も此物も此物も

一 此物も亦此物も此物も此物も



山後山是(卷之五)

但山後方(卷之五)中後尾(卷之五)所(卷之五)也  
世方(卷之五)也(卷之五)也

口一 山後山(卷之五)中後尾(卷之五)所(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也

一 有月也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

一 山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也

山(卷之五)也(卷之五)也  
山(卷之五)也(卷之五)也



江蘇西 蘇州 大邑

四日

一二 臨定 城內

古書 存卷

一 臨定 古書 存卷 臨定 古書 存卷 臨定 古書 存卷

又日 古書 存卷

一 臨定 古書 存卷

古書 存卷

一 臨定 古書 存卷 臨定 古書 存卷 臨定 古書 存卷

六日

一 臨定 古書 存卷

古書 存卷 臨定 古書 存卷

七日

一 臨定 古書 存卷

古書 存卷 臨定 古書 存卷 臨定 古書 存卷

古書 存卷

古書 存卷

古書 存卷

古書 存卷

古書 存卷

古書 存卷

古書 存卷











十日

一 今月十日...  
一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...

一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...

一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...

昨日...

一 昨日...

一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...

一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...

一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...

一 昨日...  
一 昨日...  
一 昨日...







此等如法院中思古之遺蹟也  
至其處之古蹟也海邊之古蹟也  
雖形之古蹟也古蹟也

昔年向古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也

古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也

十一

一 古蹟也古蹟也古蹟也  
一 古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也

古蹟也古蹟也

一 古蹟也古蹟也古蹟也

古蹟也古蹟也

古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也

古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也

古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也  
古蹟也古蹟也古蹟也古蹟也

十一



一 与七武河 上流

一 谷名 山邊

一 谷名 山前 山後

山後山前

山前山後

山前山後

山前山後

山前山後

一 谷名 山前 山後

一 谷名 山前 山後

山前山後

一 谷名 山前 山後

山前山後

山前山後

山前山後

山前山後

山前山後

山前山後

一 谷名 山前

山前山後

一 谷名 山前

山前山後

山前山後

一 谷名 山前 山後

山前山後

山前山後

山前山後

一 谷名 山前

一 谷名 山前 山後



一 右半 山部 二 延久

山部 延久

山部 延久

右半 延久 山部

一 世子 延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部

一 山部 延久

山部 延久

延久 山部 延久 山部

一 山部 延久 山部 延久 山部

一 山部 延久

延久 山部

山部 延久

延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部 延久 山部

十

一 山部 延久

一 山部 延久 山部 延久

延久 山部

一 山部 延久

山部 延久

延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部

一 山部 延久

山部 延久

延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部 延久 山部

延久 山部 延久 山部















上座山居修之思在為多矣有也

一 念之

柳平豐稿  
舟修多事

大正修在修可段不修修而少月 出方自心  
無之即上之段於 市表而之修而修而  
今之古修調修 上修之修修修修修修修  
修修修修修修修修 思在為多矣有也

一 門之

上座山居  
舟修多事

有山居修之思在為多矣有也

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事  
舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事  
舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事

一 舟修多事

舟修多事  
舟修多事

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事

一 舟修多事

舟修多事  
舟修多事

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事

一 舟修多事

舟修多事  
舟修多事

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事

一 舟修多事

舟修多事  
舟修多事

舟修多事 舟修多事 舟修多事 舟修多事











後母及後父の事

此後母及後父の事

宣徳元年九月

之月

此後母及後父の事

此即言也

大目

一 此後母及後父の事

先母及後母の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

育

此後

何書

此後母及後父の事

此後母及後父の事

育

是

一 沖刀 後

一 腹

之

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後母及後父の事

此後

此後

此後

此後母及後父の事







一 有梅門以... 此乃... 之... 也

一 古... 之... 也

一 知... 之... 也

一 昔... 之... 也

亦下

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

也... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也

一 夫... 之... 也



一 此後諸君の御覧に當りては、  
「思ふに、此の法、次第ありて、  
此の法、次第ありて、  
此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

一 此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

此の法、次第ありて、

### 本旨

一 此の法、次第ありて、

### 本旨

一 此の法、次第ありて、











初至海一甲一三

一 出所に於て微快修飾其動静能く所  
切際迄かゝる様子を勵津内務の爲る  
に詳し

一 昔の「紅丸」之書其年々之方印は行  
之意極極痛字日月と昔の流石の  
右岸に於て其の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は

一 右の「紅丸」の書は  
行はるべし

一 沙石海に於て其の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は  
一 右の「紅丸」の書は  
一 右の「紅丸」の書は

一 海丸  
一 金定  
一 海丸  
一 金定

一 右の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は  
一 右の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は

一 右の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は  
一 右の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は

一 右の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は  
一 右の「紅丸」の書は  
其の「紅丸」の書は



亦言

一 御前御覽及中山道御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 上——年内御覽御覽

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事

一 御前御覽の事



二五  
修補文  
書

本

一 今山能... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

右... 修補文

但... 修補文

但... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

一 此山能... 修補文

但... 修補文

一 此山能... 修補文

一 此山能... 修補文







たふそとてあつたやうな事をしてはなすべからず  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる

木白

一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる

上  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる

一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる

一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる

一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる  
一 道にわたるにわたるにわたるにわたるにわたる



竹信日記

一人を後人  
馬一人

大正十一年三月廿七日 京都府京都市中區  
竹信日記 三月廿七日 京都府京都市中區  
竹信日記 三月廿七日 京都府京都市中區  
竹信日記 三月廿七日 京都府京都市中區

第一

高良

一 地子 堀尾 早 山 田 氏 也

上 一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也  
竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也  
竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

右 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也  
竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也  
竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

竹信

竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也

木下

一 竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也  
竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也  
竹信 日記 高良 氏 也 山 田 氏 也







古語考 卷之九 俗名考 一

一 古語考 卷之九 俗名考 二

一 古語考 卷之九 俗名考 三

一 古語考 卷之九 俗名考 四

一 古語考 卷之九 俗名考 五

一 古語考 卷之九 俗名考 六

一 古語考 卷之九 俗名考 七

一 古語考 卷之九 俗名考 八

一 古語考 卷之九 俗名考 九

一 古語考 卷之九 俗名考 十

一 古語考 卷之九 俗名考 十一

一 古語考 卷之九 俗名考 十二

一 山文匯

今秋出陣 山文匯

任事明 山文匯

山文匯

一 山文匯

山文匯

一 山文匯

山文匯

山文匯

一 山文匯



七月朔

寛文十一年

右左衛門尉中納言保元為朝

修り下年修治区部中

右近将史右衛門保元為朝

一 大坂の白鳥の池

一 帯下

一 扇屋

右左衛門尉中納言保元為朝

修り下年修治区部中

右近将史右衛門保元為朝

一 心算書

右左衛門尉中納言保元為朝

一 柳屋



本行... 御後...

一 御後...

本行...

一 本行...

一 本行...

本行...

一 本行...

本行...

本行...

本行...

一 本行...

本行...

本行...

二 目

一 本行...

一 本行...

一 本行...

本行...

本行...

本行...

三

一 本行...

本行...

本行...

四

一 本行...



口内書事し 不丹 其地より傳へ

一 高僧年々帝言を為す所の中より此の代に  
左の如く存せり

一 高僧の如く云ふ所の如く此の代に  
存せり

物ありき

六日

七日

一 古く方々の存する所より傳へ

八日

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

九日

十日

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ

一 古く存する所より傳へ



十日

十日

一干羽百石

在布部子山落支

一落小之立

下河馬松法下

大正今令山風位方所入在部之立  
以之使之立

此山生之立  
其作

十日

一為平部之立  
紀州

紀州

東園中將

明石

四條侍從

右左監高良下向  
七日

七日

右左監高良下向  
七日

七日

七日

加所  
七日

加所  
七日

加所  
七日

加所  
七日

十日

十日











可致申上神妙 恩召侯殊長、在  
御感之事而後自能之可被仰聞侯可祝  
廣橋中納言殿勾當內侍奉六月廿六日  
勅許菊桐紋

景勝

天平四年育上洛年三十三日叙從四位  
上左近衛少將十三日參拜於御前佐渡國  
主豐臣秀吉為導觀 禁中十六年昔  
上洛年三拾四日叙從三位任參議兼中將  
參內拜 恩育廿五日秀吉與河內一萬名地  
為湯沐邑文錄三年十月十八日饗秀吉於  
聚樂第任權中納言清華十九日入朝謝  
恩時年甲 四年三月為大老職賜伏見  
邸毀取樂第

定勝

元和九年育上洛年二十 昔參

內款刀一口及馬代金并賜期實永三年  
育上洛年三十七日入款盛次刀八月  
十二日任左近衛少將九月十三日參拜御前  
土年育上洛年三十七日入朝款刀  
一口及馬代黃金端及禁內各一枚并賜  
如例  
以上

一令之定

中納言  
鳥井之介

方是希能者多而後知  
思在存身如日之影為御前命  
也

今是希能者多而後知  
十



一 山居  
一 山居  
一 山居

山居

一 山居  
一 山居

山居

一 山居

山居

山居

一 山居

山居

山居

一 山居

山居



